

## 【工夫のポイント】

- 全ほ場で地下かんがいシステムを導入したことで、**農作業の大幅な省力化及び汎用化**が可能に。
- 事業を契機に設立された**農事組合法人（たてファーム・和）に農地の6割を集積**。
- 集積化・法人化することで、農作業の省力化と同時に収益率の高い品目へ**計画的な転作を実現**。

## 基盤

### 基盤整備により農業経営の選択肢が増加

- 基盤整備により、**ほ場は大区画化され大幅な農作業の省力化を実現**。
- 全ほ場地下かんがいシステムを導入することにより、排水が改善、**計画的な転作が可能**に。



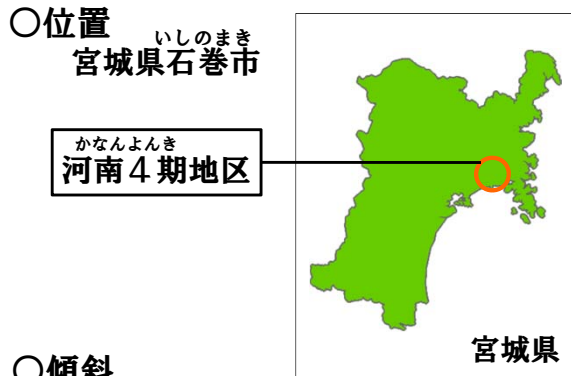
### 基盤整備 (H19年～H27年)

### 【整備前】

・10a区画のほ場で暗渠排水・用排水路が未整備で、道路が狭小なことから、大型機械による農作業が困難な状況。



## 【取組地域の概要】



- 傾斜  
・約 1/800 程度
- 主要作物  
・米, 大豆, キャベツ
- 主な支援施策  
・戸別所得補償実施円滑化基盤整備事業 (H19～)
- ・農村地域復興再生基盤総合整備事業 農地整備事業 (H24～)
- 農地中間管理事業 モデル地区

## 生産現場

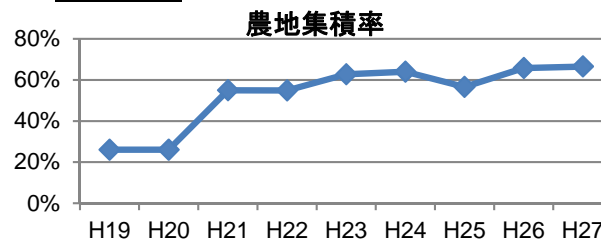
### 法人化によりほ場への認識の変化



- 法人化により、零細農家から経営者へ。
- ほ場に対する認識の変化。  
(整備前) 個人の所有物  
↓  
(整備後) 経営資源

### たてファーム・和に農地を集積

- 事業を契機に、平成26年度に農事組合法人を設立。
- 農地は同法人へ平成27年度時点で6割が集積。



【出典：農地集積実績報告による】

## 担い手

### 戦略的な出荷計画による所得の向上

- 地下かんがいシステムの導入により、**大豆、キャベツへ転作**。
- たてファーム・和では、地下かんがいシステムが整備されたほ場で、水稲、大豆、キャベツの作付をブロックローテーション化し、**計画的な出荷を行うことで、年間を通じ安定した収益**を上げている。
- 地下かんがいシステムで生産されたキャベツは、品質のバラツキが少なく、**市場から高評価**を得ている。



### 【たてファーム・和の経営】

- ①経営規模 (地区105haのうち6割を集積)  
H19: 27.9ha → H27: 69.1ha
- ②組合員数 13名
- ③売上高  
平成26年度 農事組合法人設立  
平成27年度 50百万円